



IPPNW(核戦争防止国際医師会議)コーナー

平成27年度MedEx(医学生交換留学)プログラム報告

MedExプログラムとは平成10年(1998)に開始されたIPPNW医学生による交換留学プログラムで、日本支部はドイツ支部と相互に留学生受け入れおよび送り出しを行い、医学生の平和学習や病院実習参加に対する支援をしている。

平成27年6月より、MedExプログラムに長年のご協力をいただいていた広島大学医学部と日本支部との間で正式な協定を結び、平成27年度には2名の広大医学生(広島大学医学部医学科3年 草本慎一さん、同4年 廣瀬佳和さん)の送り出し、1名のドイツ人医学生(ライプチヒ大学医学部4年 パトリック・シュミットさん)の受け入れを行った。

以下に廣瀬佳和さんとパトリック・シュミットさんの報告書を掲載する。



広島大学医学部医学科4年
廣瀬佳和

渡独期間：平成28年2月28日～3月28日

研修先：ライプチヒ大学附属病院他

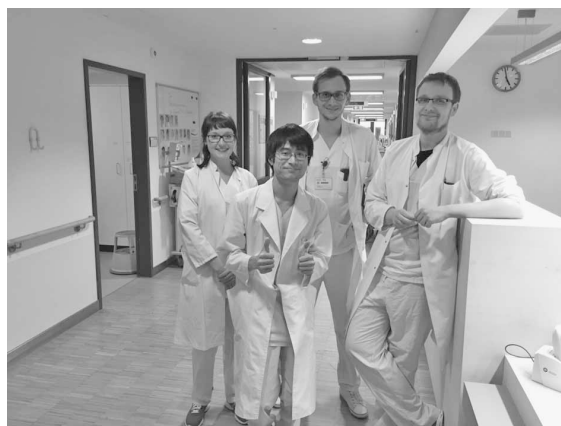
私は平成28年(2016)2月28日から3月28日までの4週間、ドイツ中部の都市ライプチヒに滞在して研修を行いました。ライプチヒは人口約50万人のドイツ東部では2番目に大きい都市であり、音楽家のバッハや作家のゲーテとゆかりが深く、芸術活動の盛んな町です。交換留学生のパトリックさんにサポートいただきながら、医学実習と社会・平和学習を行いました。

私はライプチヒ大学附属病院の血液内科で2週間インターンシップを行い、その後に町の中心部からやや外れた位置にある開業の“KULKA”診療所で1週間実習をしました。大学病院での実習では採血や骨髄採取、輸血準備などの手技を積極的に行うことができ、貴重な臨床経験を積むことができました。

ドイツでは6年制の医学教育の中で3年生から病院実習が本格的に始まり、実践的で現場に合わせた内容であったことに驚きました。しかし、大学病院は病棟の雰囲気がやや暗く、教授や上

級医の権限が大きく、また、患者さんに対する医師のパターンリズムがかなり強い、日本の現状から見て古めかしい慣習が残っている印象を受けました。

家庭医の診療所では地域住民に対するプライマリケアを実践しており、慢性疾患のコントロールと重度の患者を専門医に紹介する役割を担っていました。診察の見学をさせていただき、週2回の訪問診療にも同行しましたが、ドイツでは訪問診療をしている診療所は少なく盛んではなかったものの、近年の高齢化に伴いそのニーズが増してきており現状の保険制度との乖離が問題となっているようでした。この診療所は患者さんを理解することに努め、開かれた温かい雰囲気の中で診療が行われており、大学病院と対照的な印象を受けました。



3月11日 ライプチヒ大学病院 血液腫瘍内科
(研修医の先生方と共に)



3月17日 KULKA診療所(KULKA先生と共に)

社会・平和学習では第二次世界大戦時のユダヤ人迫害を知るためにブーヘンヴァルト強制収容所を訪れました。ドイツ国内最大級の収容所で、現在は建物がほとんど残っていない中で高電圧柵や遺体焼却炉などが残り、当時の悲惨で厳しい状況を示した写真も展示されていました。収容者の人権が全く無視され、ただの労働力として洗脳した体制と死体や遺骨が山積みになされた惨状を目の当たりにし、非常に計画的な大量殺人場であったのだと理解しました。

また、東西分離時代の歴史にも触れ、東ドイツの抑圧的な社会主義体制やそこから逃げようと壁を越えようとした人々の必死な試みを多くの展示や壁自体から知ることができました。

今回の研修は臨床手技を実践する機会を得て、大学病院と診療所の雰囲気の違いを実感したと共に、東ドイツを中心とした波乱の近現代史を学ぶことができ充実したものとなりました。

最後になりましたが、研修をご支援くださったIPPNW日本支部の先生方と研修先の医療スタッフの先生方、実習の計画と世話役をしてくださったパトリックさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



ブーヘンヴァルト強制収容所 拷問・監獄棟



ライプチヒ大学医学部4年
パトリック・シュミット

来日期間：平成27年7月21日～10月8日

研修先：広島大学病院他

平松支部長をはじめ、IPPNW日本支部(JPPNW)の皆さまに大変お世話になり、80日間におよぶ日本滞在を終えて無事帰国しました。

来日前は、日本語を少ししかじただけの私が上手くやっていけるのか少し不安に思っていたのですが、JPPNWの皆さまが暖かく親切に迎え入れてくださったおかげで、私の不安は杞憂に終わりました。

広島滞在の最初の週には広島市立大学の平和学習プログラムに参加し、一生忘れられない貴重な体験をしました。ドイツでも、1945年8月6日に広島で何が起きたかを歴史の授業で学びます。しかし、実際に広島に滞在してみて、当時、原爆によって引き起こされた計り知れないほどの苦しみについて情緒面から学ぶことができました。

平和学習の内容は非常に系統立っており、そこで得た情報の深さに大変驚きました。原爆が投下されるまでの歴史的背景、後遺症などについて学んだのはもちろんのこと、被爆者の生の声を聞いて、被爆者との感情的なつながりを感じることができました。被爆者は原爆投下当時どのように感じ、また今日どのような苦しみを抱えているのか、そして、全人類にとって平和な世界を築くための核兵器廃絶の重要性が理解できました。核戦争防止や平和のメッセージを世界中に広めることを、米国、中国、韓国、インドネシア、英国、イタリア、シンガポールなどの人たちと一緒に学ぶことは素晴らしい経験でした。私たちはそれぞれの国に暮らす人間ではなく、平和的に共存することを唯一の目標とする、同じ一つの世界に住む人間であることを実感しました。

平和学習がほぼ終わる8月6日に広島平和記念公園で平和記念式典が開催されました。平和公園の静かで穏やかな雰囲気と、その周辺で世界中から集まった人々が平和デモを行うにぎやかな様子の対比により、平和活動には二通りがあることを知りました。この日、平和な世界を築くために活動している人たちと会うことができ、ドイツ政府の代表団と広島について、そして平和学習で学んだことについて話し合う機会も得

られました。夜には人々が川に灯籠を流し、原爆で亡くなった男性、女性、子どものために祈り、このような残酷な兵器のない世界を祈念している姿を見て、深い感動を覚えました。私はその場で、戦争のない、互いを尊重し、許しあう世界は実現可能であり、それに向けて活動を続けなければならないと感じました。

翌日は平和学習参加者との別れの日で、10日間にわたってともに成長し、良き友となった私たちは多くの涙を流しました。幸いにも、その後も何度か日本人学生と会い、日本のこと、日本のアジアや世界での役割、ドイツとの相違点や類似点などについて話し合うことができました。

その後、広島大学病院の呼吸器内科と放射線診断科で、それぞれ2週間のインターンシップが始まりました。ここでも皆さんが親切でフレンドリーに迎えてくださり、私の指導のためにご尽力くださいました。ドイツと日本の医療の類似点について、特に用語の類似性について、また医療への日本文化の影響などについて、良い意味で驚かされました。医師と患者が互いに敬意を持って接し、また信頼関係を築いていた様子は、ドイツに戻って懐かしく思っています。広島大学病院の先生方がご親切にも広島平和クリニックに連れて行ってくださり、診療所と病院から成り立つ、日本の医療システムの重要な側面についても学びました。さらに比治山の放射線影響研究所も訪問し、被爆後に発症したさまざまな疾患について多くを学びました。

平和学習やインターンシップ以外にも、吉國晋先生が大久野島にお連れくださり、第二次世界大戦中の毒ガス製造にまつわる暗い歴史や、吉國先生の義父が行われた、その後の健康影響に関する有名な研究について学習しました。核戦争のみでなく、戦時に起きた他の残虐な出来事について学ぶ機会を与えてくださったことに感謝しています。

さらに広島赤十字・原爆病院で大変有益なレクチャーを受け、古い施設の壁面に残された原爆の痕跡を目にしました。またマルセル・ジュノー博士に関する文献を読み、数日後には当時の博士の様子を取り上げた映画を見ることができました。

長崎を訪れた際には、広島と比べて長崎では原爆をどのように捉えているかを見て、興味深く思いました。広島も長崎も非常に穏やかな雰囲気でしたが、多くの人にとって無関係であった戦争により、人々がその当時だけでなく今なお苦しんでいることを想像すると非常に悲しく思いました。

このように平和活動や原爆の影響について多くを学んだので、私はこれから他大学の学生に平和活動に関心を持ってもらえるようなプレゼンテーションを企画したいと思っています。医学部だけでなく、たとえば、ライブチヒで特にそうなのですが、日本に関連した平和問題に関心の高い、日本学部所属の学生にもプレゼンテーションを行いたいと思います。私はこの美しい国や人々との絆を感じており、いつか日本に帰って来たいと思っています。

最後に、素晴らしい広島滞在を実現してくださった関係者の皆さまに深く感謝いたします。来広中は皆さまのおかげで、広島や平和活動について多角的に学ぶことができ、一生忘れ得ぬ体験ができました。私たちは世界に平和を広める重大な責任を負っていますので、このJPPNWとドイツ支部との強い絆や、留学生を交換する関係を保ち続けるために努力していきます。来春には、来日中にお会いした日本人医学生を数週間ドイツにお招きすることができ嬉しく思います。私の広島滞在と同じように実り多い、快適な滞在となるように努力したいと思います。

(原文英語、事務局にて翻訳)

広島県地域医療構想が策定されました

広島県地域医療構想が平成28年3月31日付けで公示されました。広島県ホームページでも公開していますので、ご覧下さい。

広島県地域医療構想

広島県ホームページ

トップページ > 組織でさがす > 医療介護計画課 >

広島県地域医療構想

URL : <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/64/hiroshimairyoukousou.html>

